



「もの言う花も・・・」

支部長 村野 久子

中学生の頃、その年は大分年配の講師の先生が、私たちの数学の担当でした。元気あふれる生徒たちの間で、その年配の先生は静かな穏やかな表情でゆっくり授業をなさいました。単元と単元の間とか、授業の終わりに少し余裕ができたとき、その先生はいつも花のことを話されました。

花が本当にお好きなご様子で、たくさん花の名前をご存じだった。様々な花との思い出や印象を話された後、いつも必ずつこう言われるのだ。「もの言う花も、もの言わぬ花も、ともにうるわし」と。種のことに詳しく、コスモス、ひまわり、おしろい花・・・それぞれの種の形を黒板の方程式や放物線のグラフの横に書いて説明される。

ある時、朝顔の種がたくさん採れたので、希望者に持ってきてあげるとおっしゃった。私はもちろんすぐ手を挙げたし、友達も何人も手を挙げた。次の授業

の後にくださった種は、封筒の中に、黒い半月の姿をして七つか八つ入っていた。

先生は黒い固い種の中に、命が宿っていることが、不思議でならないのだと言われた。種のままで置いておけば、いつまでもそのままなのに、土に埋めて水をやれば、翌年には、芽を出し、葉をつけ花が咲く。このように命を宿している小さくかたい種を、とても、愛おしく感じると言われました。そして、この時もこう言われました。「もの言う花も、もの言わぬ花も、ともにうるわし」

この言葉の後、先生はいつも教室の中の生徒一人一人に目をやり、優しくほえまされた。いかにもかわいくて仕方がない、というような先生の表情が今も心に残っている。

先生にとつて、ガヤガヤ話し、元気に動き回る私たち生徒が、本当に花のように映るのだろうか。その時、私は少しうれしく、少しもったいなく思ったものだった。

た。

「もの言う花」である私は、「もの言わぬ花」と同じように、自分らしい花を咲かせたいと願ったのも事実だった。

後年、数学の教師になったのも先生のご指導のおかげと感謝し、花を見るたび恩師の在りし日のことを思い出している。

☆ ☆ ☆ ☆

創立七十周年を迎えるにあたって

令和九年度は西多摩支部が結成されて七十年になります。支部では総勢十六名の記念行事委員会を組織し、準備を進めています。話し合いの結果、七十周年記念誌発行をメイン事業とすることになりました。

記念誌には「思いで」「仲間」「信条」「エピソード」「日ごろ感じていること」「デジタル教科書」についてなどどんな題材でも結構ですのでお書きいただければ嬉しく思います。会員の皆様全員の声が載った記念誌を目指しています。この事業を通して会員のきずなが一層深まることを期待しています。記念誌部の委員の方には、ご苦勞をおかけいたします。よろしくお願いいたします。

令和八年度

定期総会開催される

令和八年度の活動がスタートしました

令和八年度の定期総会が、五月十五日（金）午後一時三十分から、羽村市の「プリモホール ゆとろぎ」にて開催されました。

当日は、四名の来賓をお迎えし、会員三十二名が参加して進められました。

初めに、ご逝去された皆様に対し、黙祷を捧げました。続いて、東京都退職校長会副会長

福島良樹様、東京都退職公務員連盟西多摩支部長 掛田俊之様、福生市立福生第一中学校校長金子敏治様からご祝辞がありました。

その後、長寿会員・栄誉会員・功労会員の皆様に東京都退職校長会と西多摩支部からお祝いの言葉と記念品が贈られました。

議事は、議長に岡部秀敏先生を選出し、以下の五項目が審議され、拍手多数で承認されました。

- ① 令和七年度事業報告
- ② 令和七年度決算報告並びに監査報告
- ③ 令和八・九年度役員（案）
- ④ 令和八年度事業計画（案）
- ⑤ 令和八年度予算（案）

総会の後、講演会に移りました。瑞穂町の滝澤福一先生が、『福ちゃん先生の算数ピクニッ ク―不思議な2桁の引き算―』という演題で話されました。参加者のお手伝いもあり、楽しい講演となりました。

その後、懇親会に移り、楽しい時間を過ごすことができました。



令和八年度の主な活動

◆会議

- ・運営委員会…年間十回程度
- ・理事会……年四回
- ・定期総会……令和八年五月十五日（金）
- ◆広報（年三回発行）
 - ・百三十一号…令和八年七月
 - ・百三十二号…令和八年十一月
 - ・百三十三号…令和九年二月

◆秋の一日研修

令和八年十月二十二日（木）

◆支部クラブ活動

・短歌クラブ

・漫歩会（休部） 写真クラブ（休部）

◆学校支援

西多摩支部管内の各学校にて、学習補助や副校長補佐、初任者指導等を行う。

◆協賛活動

東京都退職公務員連盟西多摩支部の「生涯学習作品展」に作品を出品する。

◆西多摩支部創立七十周年行事の準備
支部創立七十周年行事の準備を始める。

令和八・九年度支部役員

支部長……村野久子	山森健吉
副支部長…宮崎慶一	吉田哲三
庶務……伊東正典	
仲光秀城	
会計……山森健吉（副支部長兼任）	
清水裕一	嶋津和之
佐藤広明	
広報……木村 勉	小谷野良行
田村文雄	宇津木悦子
監事……青木重信	森田一彦

第二部 講演会

演題「福ちゃん先生の算数ピクニック」より

不思議な2桁のひき算

講師 滝澤 福一 先生

こどもたちの「理数離れ」が言われてから久しくなります。そのような中、講師の滝澤先生は、現職時から東京都算数教育研究会副会長として算数教育に意欲的に取り組まれ、退職後も子どもたちに体験型活動を通して算数の楽しさを熱心に教えてこられました。

滝澤先生には一年前の会報(第一二八号)に執筆していただき、今年四月の理事会でも地区情報の中でお話しをいただきました。その内容をもう少し知りたいという会員の声にこたえてくれた講演会でした。

その概要をご紹介しますが、この限られた紙面では伝わりにくいので冒頭の基本問題のみとさせていただきます。

詳細は当日配布された補助資料をご覧ください。

会員の皆さん、この機会に基本問題だけでなく発展問題まで頭の体操をするのも楽しいものです。



課題追究型の学び

基本問題 不思議な2桁の引き算って何？

①問題『不思議な引き算』を知る

②調べてみよう！

③活動(カードを貼る)

④気付くことは？

⑤データの分類整理

↓共通点の発見

何か見えてきたぞ！

⑥結論が出たぞ！

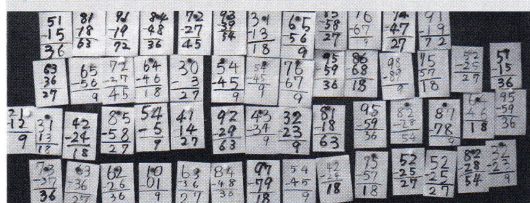
⑦分かったことを表に

⑧まとめる

まとめ(定理・きまり

・秘密)

④たくさん貼れたね。気が付くことがないか？

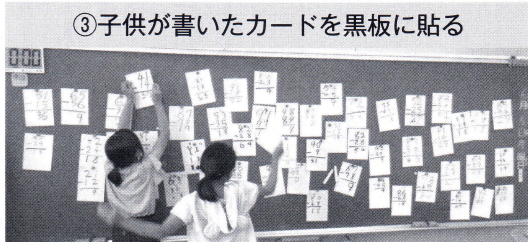


⑤答えが9になるカードを集めてみよう。

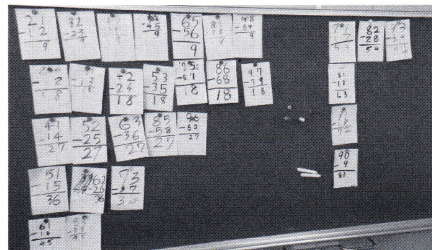
データを分類整理する



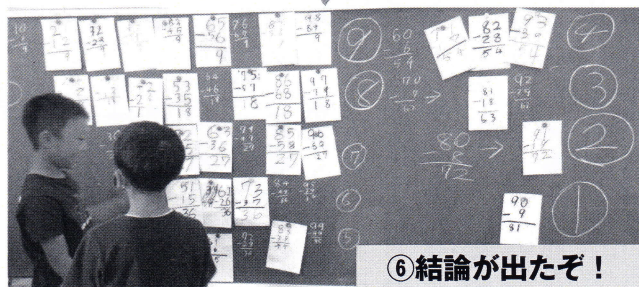
③子供が書いたカードを黒板に貼る



何か、見えて来たぞ！



⑥結論が出たぞ！



この分かったことを活用して発展問題に挑戦。

講師からの言葉

【この一連の学習活動で大切なのは、指導者が結論を言わないで子どもたちに「数学的活動をさせる」ことを通して「気づかせ・発見させ」それを「言葉にして言わせる」ことです。】と話されました。

そして、「予測をして、問題を作って、計算し、答えを電卓で確かめ、結論を出し、次の課題に進む。これぞ算数の醍醐味。予想が当たると嬉しい！」と結ばれ、講演会が終わりました。

ありがとうございました。(文責 木村勉)

カンパコーナー

短歌クラブ 担当世話人 宮崎 慶一

■久保田登先生ご指導のもと、短歌クラブの活動も八年目を迎えました。
 ■自分の感情や景色・出来事などいかに表現するかの難しさで奥深さと楽しさを味わいながら歌を詠んでいます。

宇津木 順一

急速に人口減が進む中
 スマートシュリンクが世界を拓く

米寿なり欲張りなのかなお十年
 後の世界を想う吾あり

高橋 和子

うぐいすの初音確かに聞きたりと
 しばし立ちおり曙光の中に

満開の桜堤をゆつくりと
 回りくれたりリハビリ送迎車は

宮崎 慶一

燃えさかる火を見つめおりどんど焼き
 集まりし人何を願うか

ふるさとの川に立ち込み鮎を釣る
 秋川の流れなお清かれと

《お知らせ》

今年度、新入会員としてお迎えした

先生を紹介します。

田中 淳志 先生

(最終勤務校 あきる野市立東秋留小学校)
 どうぞよろしくお願いいたします。

《西多摩支部創立七十周年記念行事》

第三回実行委員会《八年四月二十四日(金)》
 のご報告を致します。

【各部所属】(◎部長、○副部長)

実行委員長 村野久子

《総務部》◎伊東正典、○吉田哲三、仲光秀城

《式典部》◎宮崎慶一、○新井俊敷

《会計部》◎山森健吉、○清水裕一、木下美彦

嶋津和之

《記念誌部》

◎木村勉、○小谷野良行、田村文雄、

宇津木悦子、上里良彦、佐藤広明

☆確認内容

①記念式典及び祝賀会

令和九年度の定期総会で、記念式典と祝賀会を兼ねる。

②協賛金

年会費とは別に協賛金二千円のご協力をいただく。

★各部の活動内容の検討

以上を次回理事会に提案しご意見を伺います。
 今後ともご協力よろしくお願い致します。

今を生きる

今思うこと

上原 富明

会報「西多摩」の「今を生きる」への原稿依頼を受け、さて、何を書こうかと考えました。今、楽しくてしょうがない退職後に始めた「ゴルフ」のことか。趣味らしい趣味のなかった私がひと月に一回の趣味といえるかはともかく約十年続いている「フラワーアレンジメント」のことを書こうか悩みました。もちろん、「今を生きる」という点では「ゴルフ」も「フラワーアレンジメント」も大切な「潤滑油」です。

さて、「今思うこと」というタイトルにしたことについて少しお話させていただきます。私の都教職員関係の組織への参加は、三団体あります。一つ目は都公立中学校退職校長の会(中友会)、二つ目に都退職校長会西多摩支部、三つ目に都退職公務員連盟西多摩支部(全公務員が参加できるのですが、現状では教職員の参加が中心)です。この三団体で一番遅く参加したのが三つ目の都退公連西多摩支部ですが、実は二つ目と三つ目の会については最近まで同じ組織だと思っていたようです。十年ほど前に都退公連前会長の松本衛先生にお会いし、入会の話があるたびに「入っています」と答えていたことを思い出します。私のように、西多摩支部の中にも誤解され、退公連に入会されていない会員がいるのではないかと思います。誤解という

点では、年金は、現職世代に自身で給与から天引きされて積んだお金を退職後に分割してもらうと考えている方が多いのではありませんか？

正解は公的年金制度の仕組みは現役世代が払った保険料を高齢者に給付する「世代間の支え合いです」。恥ずかしながら、私も誤解していた一人です。退公連の西多摩支部では、副支部長兼組織部長をしており、多くの場所退公連の認知度を確認しますが、教職員は知らない方が多く、管理職では二分しています。市町村の職員や警察・消防の署長さんでも知らない人もいます。しかし、都では消防関係は約2000人が入会しています。全国では警察関係の人が多く入会している県もあり、現在は全国で約十八万人が入会しています。

私が今思うことをお二方のお言葉で引用致します。「年金をいただいている限りは、連盟(都退職公務員連盟)の会員であるべきである」(都退公連前会長 松本 衛先生の言葉)。「現在の社会保障制度の大部分は先輩の作ったものである。我々世代のことだけを考えるのではなく、現役世代を大事にするという観点で、この保障制度を次の世代につなげなければならぬ。これが、退公連の最大のメリットだ」(日公連前副会長 室井勝さんの言葉)。

結びに、私が所属する会はコロナ禍の影響も一つの要因と考えますが同じ悩みを抱えています。しかし「数は力です」。ぜひ一度退公連の歴史を紐解き、その存在理由を確認し正会員でなくとも構いません。賛助会員としてでも都退公連西多摩支部に入会していただきたい。これが、私が今思うことです。

地域への恩返し

古山 吉利

退職後七年を過ぎた平成二十九年、地元自治会長から、「少子高齢化が進み、水口(※みのくち・私の居住する地域名)も今後どうなるか心配だ。余力のある今のうちに、大切なことを記録に残しておきたいと思うんだけど協力してくれないか？」と声をかけられた。

現役時代は、学校の仕事に感じて地域ことはほとんど妻任せ、自分は最小限しか関わってこなかった悔いもあり快く承諾した。

会の名前は歴史研究会？、会員は有志五人、平均年齢約七十歳。郷土史に関しては全くの素人集団で、例会を月一回開催。世間話と昔話が大好きな普通のじい様達だが、地域内の強い人間関係と豊富な経験、思いついたらすぐに行動に移す実行力が強み。

まず手始めに、この地域の言葉の「訛り」、「方言」、「屋号」を調べてまとめた。次に、カメラを手に、水口に散在する石像、記念碑、道標を探索し、所在地の確認と写真撮影を行い、詳細については日の出町史を利用して調べた。各々が思いつくことを手あたり次第に調べていくうちに、偶然、古山啓蔵先生の優れた業績を発見した。

先生は明治六年、大久野村水口で生まれ、十八歳で大久野学校助教、二十三歳で同校訓導、二十八歳で同校校長に就任した。学校教育だけでなく、日曜講習会を開き青年たちの補習

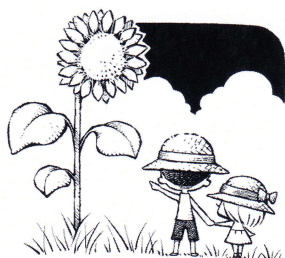
を行い、農閑期には女子教育を推進した。明治三十六年には西多摩郡教育界の幹事となり西多摩郡教育界の普及と改善に貢献した。これらの業績により文部大臣からも表彰を受けた。退職後は、村の助役、村長を歴任した。先生は我々西多摩郡の校長の大先輩でもある。こんな立派な人が水口にもいたと皆で喜んだ。

やがて厳寒の一月となり、高齢者には夜間の会合が辛くなり休会を決めた。だが、暖かくなっても誰も再開の声を上げず、そのうちにコロナ禍となり、歴史研究会どころではなくなつた。

私は、「(研究会は終わった)」と思いつつも、自分でやり遂げる覚悟を固め、日の出町史、新編武蔵野風土記稿、皇国地誌などの文書や、自治会館に現存する当番帳、会館の使用記録、総会資料などを片っ端から調べて記録としてまとめた。孤独な作業だったが至福の時でもあった。六年の歳月が過ぎ六十七頁の文書ができた。

令和六年八月それを自治会長に届けた。すると、歴史研究会が爆速で活動を再開、数点の新たな原稿も加わり、翌年三月、「ふるさと水口のはなし 第一集」を発行、町長、近隣自治会、地元小・中学校、自治会内全戸に配布できた。

研究会はふるさと水口の会となり、会員も増え、活動を継続している。自分なりの地域貢献が出来たことをうれしく思っている。



コラム

(奥多摩から世界の山へ) 日の出山の四季

富士 光男

ねむっていた山々に春の訪れを告げるミツバツツジ・三葉躑躅の紫紅色。ここ日の出山にも全山紫紅色に覆われる頃、待ちかねた登山者がどっと押し寄せてくる。休日の山頂付近、昼食時間帯ともなると、どのベンチにも今年の登山談義に花が咲く。

ゴールデンウィーク頃には、愛子内親王殿下のお印でもある五葉躑躅の咲く穴場も出現。

五月中旬、近隣の市町(羽村市や瑞穂町・あきる野市...)から、小学生の団体が校外教室として訪れ、山頂に児童の花が咲く。また、威勢の良い消防学校生百数十名が、毎年訓練として縦走登山に励む。

梅雨時になると登山者は少ないものの、山頂近くに野生のヤマオダマキ(山苧環)が可憐な花を咲かせ、山頂にはオオバギボシが群生する。盛夏の頃には猪の食害を免れたヤマユリにも大輪の花が咲く。

野分を過ぎると吾亦紅の花に赤とんぼが舞い秋が一層深まる。足元には千振の花が咲き乱れ、山々が装う。

この頃には二十四時間耐久レースハセツネカップを目指し、ランナーが山々を駆け抜ける。

そうかと思えばゆっくり落ち葉を踏み分けて歩く登山者の後、シヨウビタキが付かず離れず付いてくる。彼らも厚い落ち葉を掻き分けて探すより、

人の作った新しい踏み跡を辿ると、餌となる虫を探し易いのであろう。

山眠る季節を前に日の出山が一番賑わうのは元旦で、毎年のことながらご来光の瞬間には千人以上の人が出る。なお、この警備には以前の消防団員に代わりプロの東京消防庁秋川消防署職員が毎年警備に充っている。

二月初旬に南岸低気圧が通過すると日の出山にも積雪が見られ、新雪を待ちかねた登山者が、数多く訪れる。そんな雪の中でも、藪椿の真紅の花に春の息吹が感じられるのは筆者だけだろうか。



【五葉躑躅】



【山苧環】



【千振】



【藪椿】



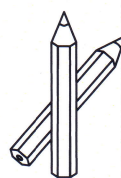
【元旦の人数】



【山頂積雪】

今回は日の出山の四季を取り挙げたが、印象に残った山々を逐次取り挙げてみたい。

編集後記



令和八年度最初の会報第一三一号をお届け致します。発刊の際にご協力いただきました方々に深く感謝申し上げます。

今回のコラム欄は、以前総会時に講演をしていただきました富士光男先生にお願いしました。自然の四季や山々をはじめ、私たちの知らない「目から鱗」の内容が今後とても楽しみです。富士先生よろしくお願いいたします。

会報は、行事の記録・連絡や皆様の思いを伝えるだけではなく、会員相互をつなぐ役割を担っています。お気づきの点や感想などありましたら、ぜひお寄せください。

今年から予報用語に「酷暑」という言葉が追加されました。熱中症にはさらに注意して、この夏を乗り切ってください。

(木村・小谷野・田村・宇津木)